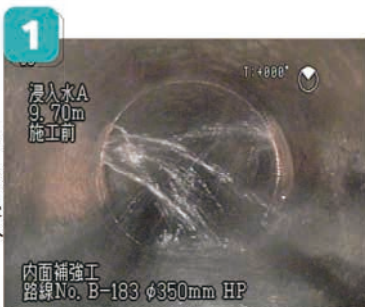




下水道管の修繕方法を紹介

下水道管内に地下水が浸入



下水道管の整備後、老朽化により地下水の浸入、管のひび割れ、腐食などさまざまな不具合が発生します。



下水道管内の調査を行い、不具合箇所、原因を特定

補修材の貼付により止水



修繕方法を検討し、工事を行います。内面補強工(部分補修)、管きょ更生工(管の更新)は、道路を掘らない工法(非開削工法)で行われ、工期の短縮や周辺環境への影響を減らすことができます。

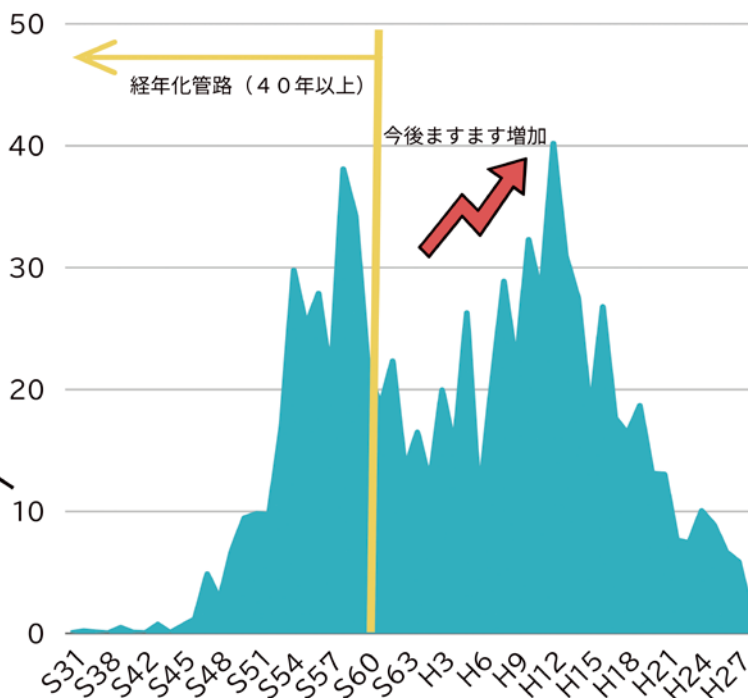
水道管の整備状況

● 布設延長(km)

皆さまが毎日使っている水道には、たくさんの設備があります。水をくみ上げる井戸、水をきれいにする浄水場、水をためておく配水池、家や学校まで水を運ぶ水道管などがあります。この設備は40年以上前に作ったものが多く、今では古くなっています。古くなると、漏水や地震で破損する心配があります。今後、取り替えることが必要な設備がますます増えていきます。



布設延長(km)



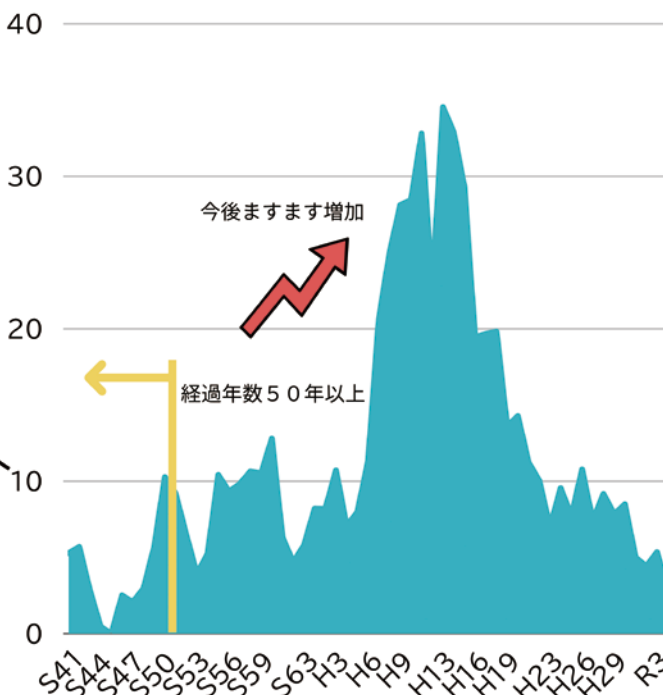
下水道管の整備状況

● 布設延長(km)

皆さまが家庭や学校で使った水は、下水道管を通して水処理センターできれいに処理されていますが、これから古い下水道管が増えていきます。古い下水道管は、ひび割れなどの不具合が発生しやすくなり、今後、修繕や取り替えることが必要な下水道管がますます増えていきます。



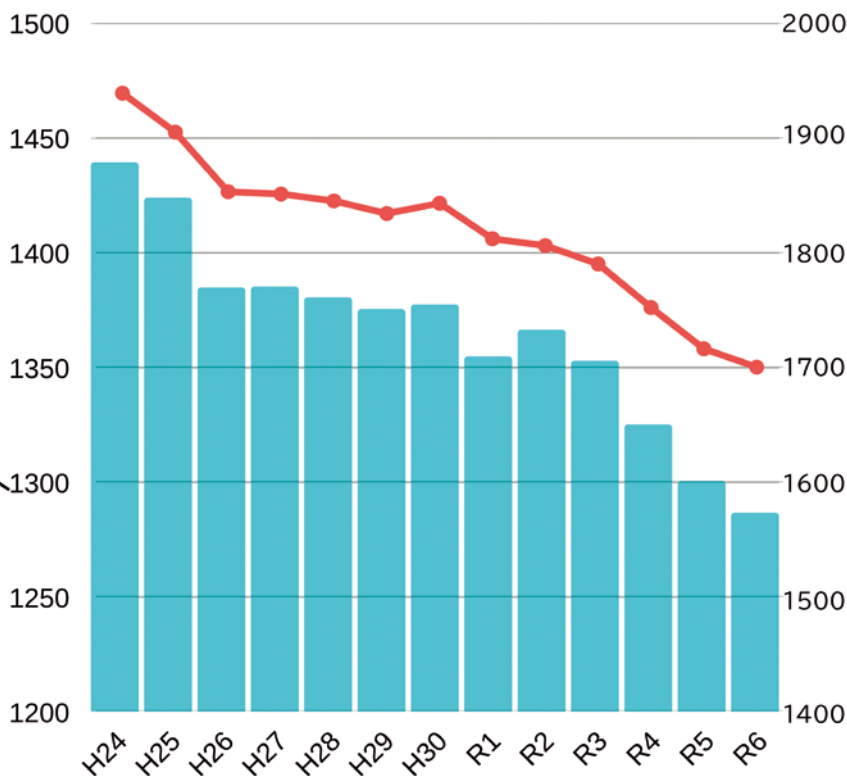
布設延長(km)



有収水量と水道料金の推移

● 有収水量(万 m^3) ● 水道料金(百万円)

皆さまが水を使った分だけ「水道料金」をお支払いいただき、そのお金で水をきれいにしたり、水道管を直したりしています。人口減少や企業の減少により、水を使う人が減っています。そのため、水道を守るためのお金も年々減っています。



市の上下水道事業は、生活基盤を支える重要なインフラであり、地域社会の持続可能な発展に欠かせないものです。しかし、近年大きな課題に直面しています。

水道事業では施設の老朽化が深刻な問題となっています。浅井戸13井、深井戸38井、20カ所の浄水場、配水池33池、総延長約846.84キロメートルに及ぶ管路は、1970年代～1980年代に多く整備されたものであり、現在、更新時期を迎えています。特に管路では、老朽化による漏水が頻発しており、耐震性に優れた管の導入を進めるなど、計画的な修繕・更新が急務となっています。

同様に、下水道事業でも老朽化が顕在化しています。水処理センターは供用開始から49年経過しており、その他、中継ポンプ場や総延長約63.4キロメートルに及ぶ管路も経年による不具合が発生するなど、老朽化が進んでいます。これら老朽化施設への対策は喫緊の課題であり、今後増加する修繕・更新の需要が予測されています。

一方、収入面でも厳しい状況が続いています。人口減少や企業・事業所の使用水量の減少に伴い、有収水量（料金の対象となる使用水量）が減少し、上下水道事業の主な収入源である水道料金・下水道使用料が減少しています。この傾向は今後も持続すると予測され、必要な財源の確保がさらに難しくなる懸念されています。加えて、人件費の上昇や物価高騰といった外部要因も事業運営に影響を及ぼしており、経営環境はますます厳しさを増しています。

このような課題に直面する中でも、上下水道は市民の日常生活を支える基盤であると同時に、災害時においても重要な役割を果たします。そのため、市では、施設の老朽化対策を着実に進めるとともに、耐震性を含めた水の安定供給と汚水の適正処理の信頼性を高め、上下水道事業の継続的な運営を目指しています。皆さまが安心して水を利用できる環境を守り、事業の持続可能性を確保することは行政の重要な使命です。

今後、上下水道事業の長期的な安定を図るために、計画的な整備・更新を進めるとともに、財源確保や効率的な運営を進め、安心・安全な上下水道サービスを提供し続けていきます。

持続可能な上下水道サービスを目指して

今知りたい！

上下水道の情報をチェックしよう

ホームページをリニューアルして情報発信中！

■問合せ 上下水道局企業経営課 ☎22-1696

